

サイバー犯罪の対策としての社会的仕掛けの一提案

—Ontology の概念も援用—

○氏名：森田英夫 (Morita Hideo)

Keyword : ・公共としての社会的仕掛け ・インターネット情報空間 ・情報全体像 ・サイバー犯罪の対策 ・オントロジー

1 目的：本研究の目的は、社会的仕掛けとしてのサイバー犯罪対策のありかたとしての一つを提案する。情報を発信する人の BDI (belieb 信念、desire 欲求、intention 意図) が公益に反せず、真正であることを判断できる false,fake 対策用情報サービスセンタが、不特定エンドユーザーへ情報提供できるような、組織・システムを提案する。

2 方法：最近の日本の情報教育に関する新聞等に掲載されている論壇の調査並びに発表者自身のこれまでの知見をもとに論考を行う。

3 結果：様々に流通する情報の全体像は文献 (3) 図 1 に整理される。そこに示すように、情報伝達距離レイヤ (家族・部落・村落・市町村都道府県、国民国家、人間地域社会、地球とその周辺) でいえば、世界には民主的な自由競争が行われそこでは「表現の自由と通信の秘密」がある社会と、共産党一党独裁の中国や大統領の統制色が強いロシアなど権威主義的な国家社会などが、それぞれにそれぞれのやり方でその情報の管理統制を行っている。情報通信におけるサイバー犯罪への対処は世界共通の課題であって、悪意ある情報、malwear といったコンピュータウイルス、false,fake 情報への対策などがある。

本発表での提案における図 1 では、透明電気通信網群による広域中継伝達系と利用者接続系そして透明電気通信網群に接続するインターネットサーバー群とを含むシステムにおいて、多くの悪意のある情報、malwear といったコンピュータウイルス、false,fake 情報は当該サーバー経由で利用者端末に送り込まれる場合が多い。これらの摘出排除を False,fake 対策用情報サービスセンタ (以下 f.f. センタと略す) が担う。

(文献 (5) における図表 10 が本提案のシステムのアーキテクチャー図である)

こういった広域中継伝達系の構築運用は国の承認を得た企業が行うものとし、f.f. センタの担い手は既存のエージェントからは離れた専門家 (エンジニア・弁護士・スペシャリストなど) 群であって、発生した情報関連事件の原因の究明と対処は、当該事件のステークスホルダへのセキュリティモデルの提示 (1 回目) と当該提示に対するステークスホルダの意見表明とそれの集計とそれを踏まえての再度のモデル構築と再提示をし、このサイクルを何回か回すことで、各ステークスホルダは自身の対処を決定し実行する。そこではオントロジーのメタモデリングの手法も使われる。

4 結論： 以上により、サイバー犯罪への対処を行う社会的仕掛けとしての f.f. センタの説明をおこなった。未だアイデア段階である。

【主要参考文献】 (1) 西垣 通 「情報教育、基礎教養から データ処理偏重が課題」日本経済新聞 2022.3.23

(2) 林 紘一郎 「情報法のリーガルマインド」勁草書房 2017.2.20

(3) 森田英夫 「情報伝達媒体と情報の分類とそして情報通信発展上の主要課題」2020.12.5 43th 情報通信学会

(4) 森田英夫・島崎誠彦 「遠距離情報伝達の方向性に関する動向のオントロジー的考察」2019.6.30 40th 情報通信学会、

(5) 森田英夫 「情報通信システムにおける情報内容取り扱い規範に関するオントロジー的考察」2017.11.18 37th 情報通信学会

(6) 森田英夫 島崎誠彦 「SNS における一対一から多対多の情報通信の課題解決へのオントロジー的考察」2019.11.30 41th 情報通信学会

(7) 森田英夫 「規範・法オントロジーの海外事例と我が国の無線関連法規定のオントロジー的考察」2018.11.17 39th 情報通信学会